

# 11. 中間期の調節

## A 出穂45日前頃の調節

この米作りは、稲の生育と歩調を合わせる「への字型」の施肥です。初期は元肥無しでスタートし、分げつが進んで稲体が増大するのに応じて必要なチッソ肥料(分げつ肥)を与え、最高分げつ期から幼穂形成期のピークを過ぎたら、後は徐々に低下するに任せます。出穂45～35日前の中間期は、まだ分げつ最盛期なので適切な肥効が持続しているべきです。

一般的な農法は「V字型」の施肥で、元肥を多く効かせ分げつを進めておいて、過剰な肥効を中間で抑え、幼穂形成後からまた肥料を効かせます。この場合は出穂45～35日前の中間期はチッソ肥効を切る時期で、考え方が逆になっています。

慣行農法では必要な 何らかの分げつ止めが、この米作りでは不要です。中干し(土用干し)も、する必要はありません。

強い中干しで、土に1cmより深いヒビが入ると、斜め下へ伸びている根を切ってしまふ弊害があるので、避けてください。

中干しのもう一つの目的は、土に空気(酸素)を送り込んで根に活力をつけ、土中の肥料の分解を促して幼穂形成期に備えることです。田植え後からしっかりと根が働いていれば不要ですが、この目的のために土の表面に少しヒビが入る程度までの、軽い中干しは しても良い。中干しは軽く乾かす程度とし、その後、幼穂形成前期は間断灌水とします。なお、出穂35日～30日前(穂肥の前)には、特に湿田では、溝切りを行なって間断灌水管理とします。田土が乾きやすくなり、水管理が非常にやりやすくなり、刈取り時にも重機械(コンバイン)が入りやすくなります。

出穂45日前頃から後は、分げつが最盛期から、やがてラグ期に達し、幼穂形成に移る前の時期です。この頃の稲体を、チッソよりもデンプンが多い健全な栄養状態にするために重要なのは、初期(分げつ肥より前)にチッソを抑えて充実した株を作っておく事です。基準通りに出穂50日前に分げつ肥を与えた場合は当然、出穂45日前には葉色が濃くなっていますが、問題はありません。

もし莖数が多過ぎて分げつ肥を与えていない(与えられなかった)場合、この時期にはすでに莖数は23本より多く確保されています。葉色がさめていて、チッソの効き過ぎでないならば、軽い中干しを行います。

莖数が多過ぎ、かつ葉色が濃い場合は、過剰分げつとチッソ肥効の抑制が必要です。肥効調節・分げつ止めの方法は2種類あり、どちらも非常に効果的です。

(慣行農法でチッソ過剰・分げつ過多に陥っている田圃の調節法としても有用です。)

- ① **田畑の大將(赤)** 20～30kgを均等に散布して、そのまま干します。
- ② **ラクトバチルス** 400gを土に混ぜた団子(ボール)を数個～十個作って、畦際から田圃のあちこちに投げ込みます。菌がチッソを食べてくれるので、4～5日で葉色がスーッと抜けます(葉色板で1目盛ほど落ちます)。このチッソは保留されていて、20日後頃から少しずつ、地力的に効きます。

この頃のチッソの効き過ぎは無効分げつを増やすだけです。また(止め葉から数えて)第3葉の分化前にあたりますから、この頃にチッソ過多の場合、第3葉が長く伸びて、止め葉や第2葉が小さくなり、登熟が弱くなります。

## B 出穂35日前(つなぎ)

出穂35日前は幼穂形成前の大事な時期です。茎葉を増大させる栄養生長が終り、穂や米を作るための生殖生長を始めようとする転換期となります。デンプンの蓄積が多く、ある程度のチッソ肥効も持続している必要があります。

基準通りに出穂50日前の分ゲツ肥が施してあれば、この時期にも、ある程度の持続肥効がありますから、原則として何も与えません。順調な場合は葉色(葉色板で3~4番)にムラが少なく、葉中チッソ濃度がどの葉でもピッタリ2.7%です。

新しい葉の先から、まばらに葉色が抜けて来るものが多いのですが、葉中チッソ濃度2.5%以下の葉が多くなると、3~4日後に葉色が抜けて来ます(葉色板で2番)。特に1本の茎で2葉以上がそうになったら要注意です。(葉鞘部分まで色が抜けるようでは手遅れです。)

茎数が多くて出穂50日前の分ゲツ肥が与えられなかった田圃では出穂35日前にこのように葉色がさめてしまう事があります。また砂地で極端に肥持ちが悪く、まだ土づくりが不十分な田圃では、分ゲツ肥を施してあっても、ここへ来て肥切れになる場合があります。

この時期に葉色がさめてしまった場合は、ただちに硫安10kgにラクトバチルス200gを混ぜて『つなぎ肥』とします。

もしラクトバチルスを混合せずに硫安だけを施す場合は、硫安3kgを散布し、数日後に繰返す(3回まで)ほうが無難です。しかし出穂25日前の穂肥がやりにくくなりますから、ラクトバチルス混用をお勧めします。

出穂35日前は穂首分化にかかる時期です。また、この頃は(止め葉の下の)第2葉の分化直前です。この頃に稲に体力があり、チッソも適度に効いていると、第2葉が大きくなります。もしチッソが切れていると第2葉が小さくなります。

出穂30日前頃から幼穂形成期となります。(長い茎の80%以上が幼穂1mmに達した日から幼穂形成期と呼ぶことになっています。)